

シリーズ 「知っておきたい感染症」

公立学校共済組合近畿中央病院 消化器内科医長 やまもと みつなり
山本 光成

ピロリ菌の話

消化器疾患の感染症といえば、サルモネラ、カンピロバクター、ロタウイルス、ノロウイルスなどの感染性腸炎やアニサキスなどの寄生虫感染症、B型肝炎、C型肝炎をはじめとしたウイルス性肝炎など多くの疾患がありますが、今回は胃十二指腸潰瘍や胃癌の原因と考えられているピロリ菌についてお話いたします。

ピロリ菌とは

ピロリ菌の正式な名前は「ヘリコバクター・ピロリ (Helicobacter pylori)」といい、胃の幽門部 (pylorus) で多く見つかる螺旋形 (helical) の細菌 (bacteria) を意味します。

以前は胃の中は胃酸のため強い酸性状態にあり、細菌は生息できないと思われていましたが、1983年にオーストラリアの医師ウォーレンとマーシャルにより発見され、マーシャルはこのピロリ菌を飲み込んで自分の胃に急性胃炎が起ることを実証しました。ピロリ菌はアンモニアを産生することで、胃酸を中和し胃の中で生きることができていました。

感染経路

ピロリ菌のほとんどは乳幼児期に感染し、成人後の感染は稀と考えられています。感染経路ははっきりとわかってはいませんが、上下水道が発達していない地域の飲料水からの感染や親から子供への食べ物の口移しなどが考えられています。そのため現在の日本のような上下水道

が完備され衛生環境の整った状況では新規の感染はほとんど見られなくなっていますが、上下水道が十分普及していなかった60才以上の年代の人は70~80%が感染していると推定されています。

ピロリ菌に関連した胃疾患

ピロリ菌が持続感染している胃では慢性的に炎症をきたし、徐々に胃粘膜の萎縮が進行し「萎縮性胃炎」といわれる状態になります。さらに一部「腸上皮化生」(胃に腸に似た組織が



萎縮性胃炎/化生性胃炎



過形成ポリープ



早期胃癌



進行胃癌



胃潰瘍

発生)が認められるようになります。そして、この萎縮性胃炎・腸上皮化生を背景として「胃癌」が発生してきます。また胃ポリープのうち「過形成性ポリープ」や胃のリンパ組織から発生する「MALTリンパ腫」もピロリ菌感染が原因と考えられています。

その他の疾患

胃以外の疾患としては「特発性血小板減少性紫斑病」がピロリ菌感染と関連しており、除菌治療により40～60%の症例で血小板数の改善がみられています。

ピロリ菌感染の診断法

ピロリ菌の感染診断には内視鏡を使った検査(培養法、病理検査、迅速ウレアーゼ検査)と内視鏡を使わない検査として、尿素呼気テスト、抗体検査、便中抗原測定があります。どの検査も感度(感染者を正しく陽性と判定する割合)は90%以上ありますが、偽陰性(感染しているが結果が陰性となる場合)もありますので、ピロリ菌感染が強く疑われるが検査結果が陰性の時は、他の検査法で再検査することがすすめられています。また萎縮性胃炎が高度に進行している場合、ピロリ菌が自然消失していることがあり、その場合は検査が陰性になります。

ピロリ菌の除菌治療

ピロリ菌の治療は内服薬で行います。まず1次除菌としてプロトンポンプ阻害薬もしくはボノプラゾンなどの胃酸を抑える薬とアモキシシリン+クラリスロマイシンの2種類の抗生剤を1日2回7日間内服します。その1～2か月後に尿素呼気テストなどで除菌判定を行います。1次除菌が不成功の場合、2次除菌として、1次除菌に使用したクラリスロマイシンをメトロニダゾールに変更し再除菌を行います。1次除菌の成功率は70～80%、2次除菌の成功率は約90%です。

副作用としては下痢(10～20%)や味覚障害及び口内炎(5～15%)、皮疹(2～5%)などがあります。特に発熱や腹痛を伴う下痢や、血便、体中に発疹がでた場合は服用を中止して、主治医に相談してください。

また喫煙が除菌率を低下させるという報告があり、除菌期間中は禁煙が必要です。2次除菌でメトロニダゾール内服中は飲酒により腹痛や嘔吐、ほてり等が現れることがあるので、禁酒も必要です。

除菌の治療効果

除菌治療が成功すると胃の炎症が治まり、胃ポリープも縮小もしくは消失し、胃粘膜の萎縮も改善していきます。また胃十二指腸潰瘍も除菌治療がされていなかった時代は内服治療により治癒しても、頻繁に再発していましたが、除菌治療を行うことでほぼ再発しなくなりました。

また胃癌の発生においても、新規発生や内視鏡治療後の再発を4～6割減少させると報告されており、特に感染早期で胃粘膜の萎縮が軽度なほど発癌予防効果が大きいと推定されています。

最後に

ピロリ菌の除菌治療によりピロリ菌が関係している様々な病気のリスクを減らすことができますが、完全に胃癌の発生を抑制することはできません。そのため、除菌治療が成功しても、内視鏡検査を中心とした定期的な画像検査を受けるようにして下さい。

